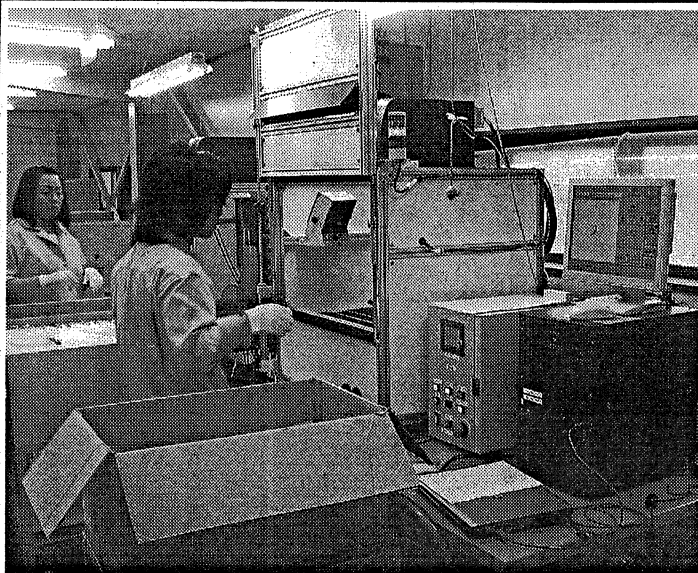




8月から稼働している3次元レーザー剥離機



海老沼社長

5次元機
も開発中
外販視野
に研究加速

同社は07年に設立。駆使し、遊技機プラス 貫して行っており、開 精密医療機器部品の設 チック部品の成形から 発力に定評がある。 計、生産や協力工場を 表面処理に至るまで一 こうした事業展開の中、新たな成長の糧としてのが遊技機(主にパチンコ)のプラスチック装飾部品に用いるレーザー剥離機の開発だ。

同装飾部品は見た目を華やかにするため、輝度感を出そうと、アルミの真空蒸着を施し、鏡面仕上げにしてあるものが多い。一方、リーチが掛かった際には、同部品をバックライトで照らし、光で演出させるのが主流となっているため、光の当たる部分についてはアルミを効率良く、剥がし、透明化する技術が求められる。

群馬産技センターと連携

ただ、ニッチな分野 だけではおむね完成」だけに規格化した装置(同社長、最終的な調整を進めており、年度内にも完成させる。なお、同社ではこうした自社開発装置を武器に、積極的に新規受注を取り込むのではなく、この装置自体を広く普及させるビジネスモデルを模索しており、早ければ来年秋口にも規格化し、できるだけ低価格に抑え、売り出す方針。

海老沼恵也社長の話 現状は遊技機部品の加工を行っているが、自動車のパネル関係などはより効率良く「面」で剥離できるもの。8月からは本社工場で実用化しているほか、より複雑形状の剥離に対応できるよう5軸(5次元)加工機の開発にも取り組んでおり「4軸

太田のワークステーション

3次元レーザー剥離機実用化

精密板金加工や遊技機部品の製造を手掛けるワークステーション(太田市西新町14-1、海老沼恵也社長)は0276-33-9107(前橋市亀里町)と共同で、3次元レーザー剥離(はくり)機を開発した。8月から社内で遊技機部品向けに実用化しているほか、より複雑な形状に対応するため5次元機の開発にも取り組んでおり、今年度中にも完成させる見通し。今のところ、用途は遊技機の装飾部品に限定されているが、さまざまな需要が見込めるため、来年秋口の外販を視野に入れており、新たな事業柱に育成していく方針だ。

「海老沼社長」と一合(莞起。昨年度の群馬産業技術センターの「公募型共同研究」に採択され、共同開発したのが3次元レーザー剥離機だ。これまでも「マーキング」と呼ばれる「線」で塗装などを剥離するレーザー加工機はあったが、同社が開発したのはより効率良く「面」で剥離できるもの。8月からは本社工場で実用化しているほか、より複雑形状の剥離に対応できるよう5軸(5次元)加工機の開発にも取り組んでおり「4軸

